

障害者に人権はあるか

相模原障害者施設殺傷事件を知っているか。知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」の元職員であった植松 聖が、同施設に刃物を所持して侵入し、入所者 19 人を刺殺、入所者・職員計 26 人に重軽傷を負わせたというものだ。植松は、重度の障害者を生きている価値がないもの、生かしてはいけないものだと考え、優生思想に従って犯行に及んだ。これは人権、生きる価値について深く考えさせられる事件である。

「障害者も私たちと同じ人間である」本心でそう思っていたかわからないが、周りに意見を求められたら、間違いなくそのように答えていただろう。だが植松のある主張を見て、考えが揺らいだ。それは「知的障害を理由に裁かれないという事実は、彼らが人間ではないことを証明している。障害者が人間ならば、彼らが罪を犯した時同様に裁かれるはず。」というものだ。障害者の刑を軽くしているのは、私たち健常者である。その時点で障害者を平等な人間として見ていないのではないか。

「あなたは障害者をまったく差別していませんか？」

私は特別支援を専攻し学習している以上、綺麗ごとで終わらせたくはない。私たちは障害者の現実をこの目で見る機会を与えられている。差別は存在するという現実をまずは受け入れる必要がある。それを直視せず回避していることで、この理想論だけで完結する社会が出来上がっているのではないか。私には障害者に人権があると言える証明をまだすることができない。だが、自分の中の差別的な部分と向き合うことで、障害者への考えも変わってくるかもしれない。

引用

[相模原殺傷事件と死刑判決が私たちに突きつけた問題：全ての命は大切か（碓井真史） - エキスパート - Yahoo!ニュース](#)